

## 令和7年度 第2回 学校運営協議会 記録

### 会長挨拶

本日の六星祭舞台発表、児童生徒の表現の様子から盲学校の教育の質の高さが窺えた。小規模校の良さが生き、役割分担や承認活動等の丁寧さが学校全体の雰囲気を良くしている。それにより、皆が伸び伸びと表現活動していると感じた。

### 議事

#### ① 施術所登録について（学習指導要領にある登録の規定及び登録の意義を説明）

質問・検討：健康祭等で施術をしてもらえる枠がこれにより広がるのか？→地域連携やボランティア活動など、この登録によりその枠が広げられるといったことではない。現状では生徒（3年生）がいないと施術が行えない。教員の技能維持や地域との繋がり、臨床の繋がりという点で施術所登録するメリットは大きい。結果的に健康祭における施術ボランティア等、地域との繋がりを維持できる。

#### ② 盲学校の強みと課題に関する意見聴取（課題：集団作り・支援過多・実社会との乖離等への対応）

A 委員意見：農福連携を20年以上に渡って行っている。生きづらさを抱える方の砦となっている。少人数も丁寧で障害や生きづらさへの対応ができる学校として、強みにしていけると良い。

B 委員意見：学校として目指すべき方向性の再確認が必要である。支えられる・援助されるだけでなく、学校側から地域や社会に貢献していく、真に支えあう関係に成熟させていく必要がある。学園祭を見て、集団づくりはそれぞれでできていると感じた。それを認識し、次のステージを目指せるように支援できる学校となって欲しい。また、情報発信はより現代的なツールを取り入れるなどしていくことが効果的と思われる。

C 委員意見：視覚障害に特化した専門教育を一般校で提供していくことは困難であると自身の視覚障害の経験（生徒・教員共に）から感じる。ICT機器の進化により、情報収集力の向上が見込まれる。適切に情報を処理していくように早期からの適切な指導が大切となる。その指導が適切にできるところが盲学校である。それを強みにして欲しい。また、自立に向け、移動・日常生活スキル・文字処理スキルが重要と考える。教員はそれらを適切に指導できる専門性を高めることが必須である。生徒の自立には類似の経験則を知ることが良い学びになるため、先輩の話を聞ける機会を大切に用意して欲しい。

D 委員意見：体験の充実が子どもの成長を促す大切な取組であり、視覚障害の支援学校では重視している。しかし、地域や学校間の交流など実際の体験場面で深く関わっているか

というと難しい現状も感じる。そこで、学校内での関わりの機会をより大切に扱っていって欲しい。（他の委員より：交流自体は良いことであるが、視覚の状況でどうしてもベースの違いなどから同じ遊びや活動に参加することが難しい面は出ています。難しい面の解消のみに焦点を当ててしまうと当事者が苦しくなってしまうこともある。当人の本当の想いに寄り添って欲しい）。

E 委員意見： 多様な集団という点で、地域を上手に活用して欲しい。シニアクラブ等既存の交流に留まらず若い人たちと触れ合える場も模索していきたい。スポーツ交流なども効果的と考える。地域に 19 の団体があるので、相談しながらどのような連携ができるのかを話し合っていきたい。

#### **連絡事項**（プレゼンテーションソフトで取組の様子を報告）

##### ① 防災・安全の取組について ② 進路指導の取組について

質問及び確認：盲学校の防災訓練でも示されていたように、この地域の浸水は 3 m と想定されている。安全に関し、地域でも防災対策システムを漸次改定している。幼児児童生徒に関わる教員にも当然それぞれの生活がある。災害が長引いた場合等、地域とどのように協力していくのかを考えておく必要がある。災害時の初動は地域が先頭になる。想定されるそれぞれの状況において細部までを調整していくと良い。事前ミーティングなど、地域と学校との相談体制を構築していく必要があると思う。

##### ③ いじめに関する取組について

質問及び確認：1 学期に行った調査ではいじめ認知件数がゼロであった。